

今日はね。

vol.6

漫画  
です。  
エ  
ッツ  
セイ  
これは



# 見分ける 技を。

今となつては  
問題なく  
わかりますが

小さい頃は  
ひどく見分けが  
困難なものが  
ありました

ああ  
なつかしきかな

幼き私の  
観察力の  
ズレ、さっ。

例えば…

レタスと  
キャベツ。

キャベツは  
食べれましたが  
レタスは嫌い  
だったので

食卓に  
並んだ時には  
トランプ同然  
でした

虎と  
ライオンの  
メス。

狩り  
じや!!

十二支  
なんだぜ!!

たてがみのみが  
判断材料で  
模様のごとは  
視野にありません  
でした

そして  
現在。

何か細い  
メロンが  
ある…

あ…  
違うわ  
これ  
冬瓜だわ…

難題は  
つきない。



# 私のカッター事情。

私は仕事から日常的にカッターを使用するのですが

二種類のカッターを愛用しております

折れ刃式とデザインカッター



切れ味を保つために定期的な刃の取り替えは必要なのですが

トーンけずりしていると切れ味

割とばやとおちる。

デザインカッターの先端は

気づくと折れている。

ちよっぴり困ったことになっております

あれ!!  
今!!  
はやいな!!



マメに刃を取り替えるようになったのは最近のことです

それまでの結構な期間は力任せに作業をしておりました

この頃はけずりもよくわかっておらずひたすらトーンを切っておりましたとさ。

なので今でも刃を取り替えた直後は...



あ...いえ何でもないです。

切りたい時に切れるもんが名刀つてもんで...

切り過ぎ続出。





# ニンジン 攻略法。

私はこの世には  
二種類の  
ニンジンがあると  
考えています

それは  
ニンジンらしい  
ニンジンと  
そうでないもの！



この  
「らしい」は  
味のことで

一説によると  
古い品種ほど  
ニンジンの味が  
強いようです

そして  
このニンジン  
シチューには  
かかせません

よって私は  
選択を迫られる  
わけです



数を多く  
小さく切るか

数少なく  
大きく切るか

小さな苦しみの  
連打か  
数回の大きな  
苦しみか…

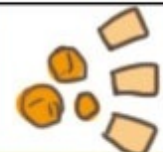


まあ大抵の  
場合は  
細かく切って  
しまいます

入れないという  
選択をしないのは  
見栄えの問題と

「ニンジン  
食べれるんだぜ」  
という主張を  
こつそり  
したいからです

主張する  
相手とか  
いないけどね！  
あーはん？







# いと不思議なりは。

一時期家でケーブルテレビが見れた時期があり

私はミステリーのドラマシリーズを好んで見ておりました

当時まだあったテレビ

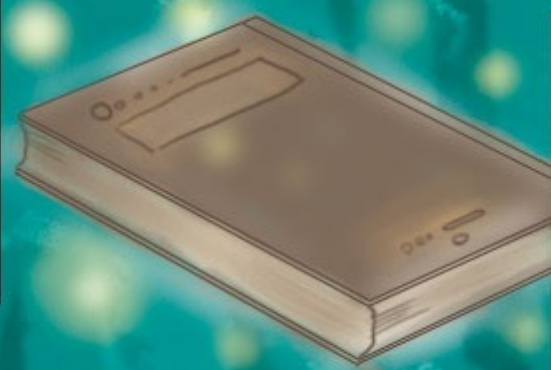
この探偵の眼力は何かおおう...  
何でござい...

そしてふと気づいたのですが...



原作の年代のせいなのか

それともミステリーとはそういうものなのか



事件の発端は大抵「愛」か「金」か「名誉」であることがほとんどでした

「愛」は情熱的。

「金」は現実的。

「名誉」はその話の舞台のお国がらを考えればまあ納得。

しかしそれ故に殺人や事件を起こすなんて...



フィクションとはいえ...

皆げんきですねぇ...

そのエネルギーこそが私にとっては何よりフィクションでした。





# 解決策に ならず。

食べるとすぐ  
眠くなってしまう  
私ですが

昨今はガムで  
対策をうつて  
いました。  
しかし効果は  
いまいち。

食べ物の量は  
調節できない時と  
そうでない時が  
あるので  
対策が必要  
なのです。

引き続き  
睡魔対策を  
探して  
おりました



結果たどり  
ついたのが  
カフェイン  
錠剤でした

ものがもの  
なので解説書を  
熟読。

用法用量を  
守って使用  
いたしました。



効果は絶大  
でした!

けれど使用  
回数を  
重ねるうちに  
問題が  
出てきました



まず  
吐き気



最初は  
原因が思いつかず  
慌てましたが  
解説書を再読。  
原因理解。

その後  
頭痛。

あわせて  
目の奥の  
痛みが  
ありました

←まだ吐き気  
ある。

朝日が  
目にささって  
痛いので  
布団に  
もぐって  
無理矢理  
寝た。



症状は  
服用から  
だいたい時間が  
たつてからの  
ものでしたが

3つの症状が  
入れ違いや  
同時にきたので  
ダメージは  
大でした。

うーん。  
ズレにちょっと  
耐えた。

今後どう  
するかねー。



世の中  
そうそう便利な  
ものはないのかも  
しれませんね

身をもつて  
今日も一つ  
賢くなりました







# 幼き日の夢でお会いしましたね。

以前美術館で見た絵が再度企画展に登場するという情報を得て

美術館に行つて参りました



今回は目当ての絵の作者さんの絵がたくさんあって

晩年の作品も見れる素敵な企画展でした



雑誌の資料やエピソードも心惹かれたのですがそれより私を惹き付けたものがありました

私は小さい頃河童の怖い夢を見たことがあって

それ以来河童については興味と恐怖があいまぜになつていましたが



ここでの河童の絵はそういう怖さはほとんどなく愛嬌にあふれておりました

もちろん絵に描かれた河童達は私の夢にでてきた河童とは違うのでしよう

もう河童の夢は久しく見ておりません

それでもあの妖怪に心惹かれて河童を描く人がいたことがどこかうれしかった気がするんです







ソフトとは  
どんな  
意味ですか？

昨今やたらと  
咳がでる日が  
続いています

風邪薬も  
飲みましたが  
治らず。  
出先で  
咳止めを  
購入しました



とりあえず  
咳止めが効くか  
わからなかったので

一番安くて  
量の少ないものを  
購入しました

量と値段のみ  
見て買ったので  
気づかなかったの  
ですが

箱には  
「ソフトカプセル」の  
表記がありました



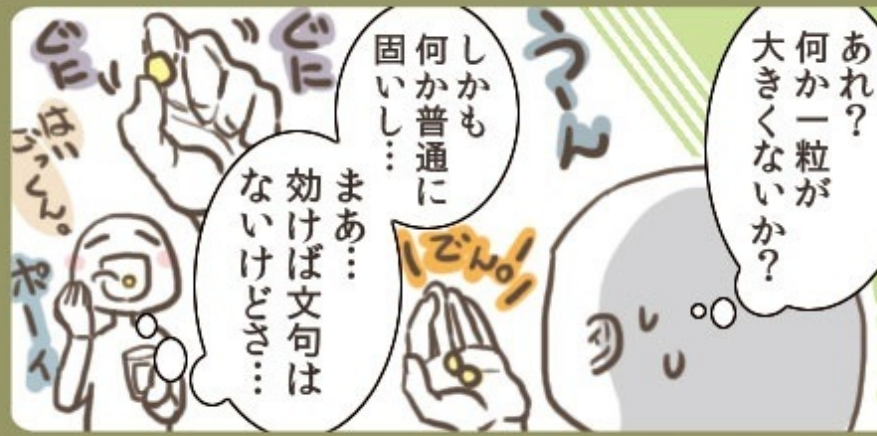
飲む時に  
気づき  
何となく  
飲みやすさを  
期待しました

しかし…

あれ？  
何か一粒が  
大きくないか？

しかも  
何か普通に  
固いし…

まあ…  
効けば文句は  
ないけど…

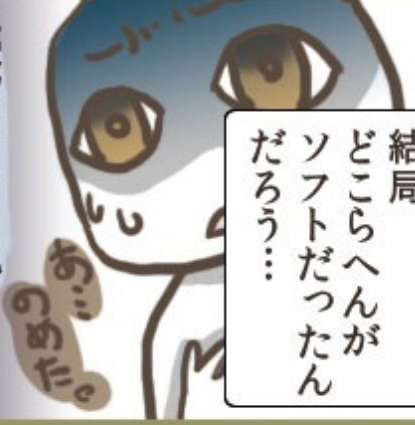


あれ!?!  
喉から  
落ちていけない?  
異物感



結局  
どこらへんが  
ソフトだったん  
だろう…

謎だけが  
残りました。





おそろく  
選択が  
最前ではない。

私は  
お話が  
うまくは  
ありません

人と話すのが  
楽しい時も  
あるし  
日常会話は  
問題ないようです



ですが  
タイムリングや  
内容、疲労  
なんかが多分  
きつかけで

つじつまの  
合わない  
言葉が口から  
飛び出すことが  
あります

結果たいてい  
話相手の中には  
「？」が浮かぶ  
ことになるわけ  
です



伝えなければ  
ならない時は  
それが予想  
できても  
とにかく  
話さなくては  
なりません

けれど  
それほど  
重要でない  
内容の会話の時  
私はずい  
考えて  
しまいます

私はずい  
考えて  
しまいます



混乱をさせない  
けれど説明には  
足りない容易な  
言葉で話すか

濁し流して  
沈黙し  
会話そのものを  
避けるか

この二択の  
どちらも  
正解でないことは  
わかっています

だとしても  
私にとって  
「正解」は  
まだまだ  
易い選択肢では  
無いのです





想像、そして  
気づく。

私がタオルケットが  
好きなのは  
以前も描いたの  
ですが

寒さ近づく  
この時期に  
なると  
タオルケットと  
毛布のコンビは  
最高です



これに  
くるまって  
いるとき

私の頭には  
毎度のように  
腸のイメージが  
浮かびます

昔学校で  
習いましたが  
タオルケットが  
腸内面の柔毛

毛布は腸の  
外側です



小腸か大腸かの  
細かい点は  
さておき

臓器に包まれて  
眠るなんて...

どこか危ない  
人間愛の  
様では  
ないですか...

...素敵だ

などと考えて  
いたのですが...

さてよ...

もしこれが  
大腸だったら  
...

食物は

食道を通り

栄養を

吸収され

腸を通過

最後には...

私の  
ポジシヨンって  
まるでウ...

考えるのを  
やめた。



今日はね。 vol.6

<http://p.booklog.jp/book/57703>

著者：童

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/hagurumawarashi/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/57703>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/57703>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ